

**奨学金:牧田甚一国際奨学基金**  
**大 学:立命館アジア太平洋大学**  
**名 前:ハソティマーナ ディーオ サビアモーン**  
**国 籍:シンガポール**

この度は、2017年度牧田甚一国際奨学基金に採用いただき誠にありがとうございます。私は、シンガポール出身で、留学のため2015年に日本に参りました。現在は、アジア太平洋学部に所属し、国際関係学科として教育を受けております。私は、留学生として今まで経済的な不安を解決する為、アルバイトをしておりました。その結果、勉学に力を注ぐことはできましたが、APUでの多文化環境や学生生活を充実させる時間が足りなくなり、バランスを取るのが難しくなっていました。

しかし、この度、2017年度牧田甚一国際奨学基金をいただけるようになったことで、これからは全力で勉強する時間、学生としてAPUでの生活、そして別府の社会に貢献する時間も増やすことができます。

私の目標は、国際理解がある人になって立命館アジア太平洋大学を卒業することです。そして、日本とシンガポールの文化的な架け橋になることも私の夢です。この目標を達成するために、APUでの国際的な機会を専心に利用していきたいです。特に、英語の授業で先生の助手として日本人学生とのコミュニケーションを図っております。それ以外にも、国際関係学科の専門科目として国際理解についても学んでいます。

今学期は、地域交流に参加して日本の文化をもっと学ぼうと思っています。この2017年度牧田甚一国際奨学基金が私に与えてくれる機会と資源として、国際的な文化の違いや自分の経験の中でいただいた意見を他の人々と交換することで、日本や世界について学ぶことができると思います。将来、シンガポールに帰ったら、日本での経験から学んだ国際理解やマナーを、社会や就職環境に反映できるように貢献したいです。この行動は、日本とシンガポールの文化的な架け橋になれると思っています。

私は、日本と母国だけではなく、全世界で貢献できるようなグローバルな人になっていきたいです。また、様々な文化交流や国際貢献を今まで続けてきましたが、これからは、この牧田甚一国際奨学基金をもらう上で、今まで以上に頑張りたいと思います。

今まで困っていた経済問題をこの奨学金を通して解決できることに本当に感謝しています。牧田甚一国際奨学基金を貰うことに対する感謝の気持ちを忘れず、この奨学金の奨学生としての誇りを持ち続けていきたいと思っています。

この度は、本当にありがとうございます。貴重な機会をいただいたので、絶対に頑張りたいと思います。